

磯部舞子  
violin

栗林すみれ  
piano

2024 08月04日(日)

開場 14:30

開演 15:00

(2ステージ入替無) (1drink 600 ~)

MC=3300+2drinks order

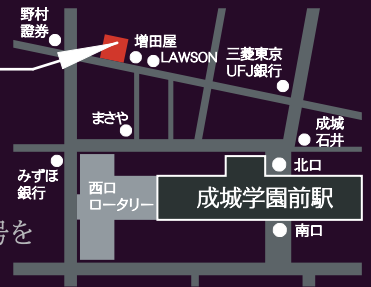
CAFE **B**EULMANS

世田谷区成城6-16-5 カサローザ成城 2F

03-3484-0047

mail: info.cafebeulmans@gmail.com

メールでご予約の場合、  
必ず当日ご連絡の取れる電話番号を  
ご記載下さい。



## 磯部舞子 (ベチコ)

5歳の時、みたこともきいたこともない「ばいよりん」という語感に惹かれ「バイオリン」を習うことをなんとなく決意する。2010年から2011年にかけて近所の喫茶店で、素敵なミュージシャン達に次々と出会う。素晴らしいに大興奮しているうちに、いつの間にか現在に至る。これまで一緒にしてきたミュージシャンは伊藤多喜雄(民謡)、早川義夫、中川五郎、小山卓治、石川浩司、林正樹、大柴拓、一噌幸弘(能楽)、ハシケン、伊藤ヨタロウ(メトロパルス)、チャラン・ポ・ランタン、松尾スズキ(劇団大人計画)、根本宗子(演劇)などなど。イソベの「ベ」をとって「ベチコ」の愛称で呼ばれている。バイオリンを弾きながら、全力で走ったり飛んだり投げ銭を挟まれたり、過酷な環境でも弾けるのが特技。時には眠れぬ夜もあるほど元気が有り余っていて、2018年に握力40kg(片手)あることが判明。いつかワイヤーアクションで空中を滑空しながらバイオリンを弾くのが夢。たぶん静かにも弾ける。「同僚達」と呼んでいるおもちゃ楽器を使ったり、ごく稀にアコーディオンを弾いたり、ごく稀に歌うこともある。気持ちが昂ると歌か曲かイラストが爆誕するシステム搭載。様々なシンガーソングライターや楽器演奏家と共演しているが、特に共演アコーディオン奏者数では、全国トップクラスの蛇腹キラーだと自負している。サポートミュージシャンのはずだけサポートでできているのか不明。ジャンルも不明。良ければなんでもヨシ。なった方を楽しむ。ものすごい規模のおっちょこちよいで、人生をきちんとコントロールすることは諦めている。私生活はインドア派。家から出たくなさすぎてリングフィットアドベンチャーにハマったり、金継ぎが趣味。自分でハンダ付けしてバイオリンのピエゾを仕込んだり(アースもちゃんと取ってます)細々したもの自作することが比較的好き。都内を拠点に全国でのらりくらりと活動中。辻楽師のように、通りすがりの人にも素晴らしいと思わせられないと明日のご飯がない気概で音楽をやりたい。赤紫と野菜と生き物が、むちゃくちゃ好き。

## 栗林すみれ

埼玉県立芸術総合高等学校音楽科、尚美学園大学芸術情報学部音楽表現学科ジャズ&ポップスコース卒。2014年 JAZZAUDITORIA にてオープニング・アクトを飾り、その後3回に亘ってブルーノートトーキョーに出演。同年、行方均氏のプロデュースでサムシンクラーレベルからデビュー。1stアルバム"TOYS" がジャズライフ、ジャズジャパンなどに取り上げられ2014年ディスクグランプリニュースター賞受賞。2015年早くもセカンドアルバム"Travellin'"をリリース。2017年金澤英明との双頭リーダー作"二重奏"をローヴィングスピリッツから発売。2018年、総勢11名参加のアンサンブル作品"Pieces of Color" とピアノトリオ作品"the Story Behind" を二ヶ月連続リリース。ジャズライフ誌で表紙、巻頭特集でとりあげられる。同年、Yokohama Calling のプロジェクトに参加、ロンドンのホクストンホールでのリーダー公演が好評を博す。アンドリア(イタリア)でのソロコンサートも行う。トランベッター Niran Dasika とのデュオ、カルテット、また栗林すみれセクステットとしてオーストラリアのジャズフェスティバルに出演。一番印象的だったパフォーマンス (australianbookreview より)、フェスティバルのハイライト (CyberHalides Jazz より)、と評される。溝口肇のジャズアルバムへの参加や、NHKBS プレミアム『美の壺』でオリジナル曲が使用されるなど作曲やアレンジ方面の才能も発揮している。先人への敬意と幅広い音楽性の融合から紡ぎだされるオリジナル曲とインプロヴィゼーションは新たな世界を切り開きながらも心地よく、多くの聴衆の心を掴む。